

抱っこから始めるボランティア

### 一般社団法人ぐるーん



代表理事  
河本 美津子 さん

●プロフィール  
グリーンコープ生協おがやま総合員、  
岡山県子ども日本語学習サポーター、  
岡山県日本語支援推進員として、日本  
で暮らす外国人の支援も続ける

一般社団法人ぐるーん

- 2011年2月に神奈川県で活動がスタート
- 2016年8月現在、全国に広がる約1300人のサポーターがインターネットでつながる

- 主な活動
  - ・定期的に地元乳児院や児童養護施設を訪問し、抱っこやスキンシップ遊びを通して子どもたちに温もりを届ける
  - ・施設の子どもたち、里子や養子の子どもたち、一般家庭の子どもたちが立場を超えてふれ合う交流イベントの開催
  - ・養子縁組制度や里親制度への理解を深めるための情報発信
- サポーター登録はホームページから  
<http://www.gurun.org/>



山岡新画2013年9月25日朝刊朝野写真



抱きしめて  
「あなたは  
愛されているよ」と  
伝えたい

「ぐるーん」との出発点  
「抱っこ」でお話お話を  
「ん」という河本さん  
困っている人や弱い立場  
の人を放っておけず、正  
婦業の傍ら、言葉が通じ  
ずに遠方に暮れる岡山在  
住の外国人やその子ども  
たちにボランティアで日  
本語を教え、地域活動で  
も積極的に役割を担って  
出る日々を送っていた。

3人の子どもたち全員  
が通学や就職などで家を  
出たのは10年前。広く  
なっただけの家の中を  
夫と2人で片付けていた  
時、もう一度子どもと一  
緒に暮らしたいという思  
いが、「言葉」になってい  
ね、「言葉」になってい  
ね」という言葉に響いて  
口に出た。産みの親と離  
れて暮らす子どもたちが  
いること、里親という制  
度があることは知ってい  
たが、それ以上の知識は  
なく、なぜそんな言葉を  
口にしたのか自分でも驚  
きながら「またイチから  
子育てするなんて」と思  
い直した。

それから15年が経  
った頃、河本さんはイン  
ターネットの交流サイト  
を通して「ぐるーん」の  
活動を知った。サポータ  
ーと呼ばれる登録会員が  
乳児院や児童養護施設の  
子どもたちを「抱っこす  
る」という活動内を担い  
ていて、河本さんは「思  
えばできるよ」と直感  
河本さんは2012年、  
岡山県で初めてのサポー  
ターとなった。

「抱っこ」を体験したサ  
ポーターは、私たちが  
子どもたちにあげるも  
のよりも、子どもたちが  
からもらえるものが通  
かに大きい」と口を揃え  
ます。それが活動を続け  
る原動力の一つかもしれ  
ません」と河本さん。

岡山で2人目のサポー  
ターが登録したという知  
りかえを受けた河本さん  
は「思ったよりもサポー  
ターになったのだから」と  
思い、実際に会うて話を  
することにしました。彼女も  
また、「自分ができるこ  
とを」という思いで一步  
を踏み出した人だった。

2013年に「ぐるー  
ん岡山」の代表となった  
河本さんは、その後もサ  
ポーターが誕生するたび  
に直接会って話をすると  
いうスタイルを貫いてい  
く。「抱っこ」の役に立ちた  
いと思ってる人はもっ  
といるに違いない」と、そ  
う考えた河本さんは、ぐ  
るーんの活動をより多  
く、新聞の取材やテレビ、  
ラジオへの出演など公認  
活動に力を注ぎ始める。  
インターネットや子ども  
も手頃で、岡山のサ  
ポーター数は日に増えて  
増えていった。

人と人をつなげて  
いく素晴らしい活動を感じ  
た河本さんは、サポータ  
ー同士の間で始めた。サ  
ポーターはインターネットで  
つながる仲間だが、直接  
会ってさらに心を一つに  
する機会が増えた。サポ  
ーターの中には、子ども  
たちの力になりたいとい  
う思いを持ちながらも、  
定期的な抱っこボランティア  
に参加できない人も  
いる。抱っこ以外にでき  
ることはないかと模索す  
る中、新しい活動も生ま  
れた。ベビースタイルを  
作り出して施設に届けをフ  
ロジェクトもその一つ。  
気がつけば、岡山のサ  
ポーターの人数は前回  
になつていた。2015  
年2月、河本さんは急激  
した代表の思いを受け  
兼、ぐるーん「全体  
の代表理事に就任する。



愛が得意なサポーターが集まったアカベラームの活動。言葉を通して子どもたちに愛を届ける



「温かく、そして力強く、  
河本さんは愛を込めて子  
どもたちを抱きしめる

「抱っこ」すること、抱っ  
こされた子どもも小さな  
手で私をぎゅっと抱きし  
めてくれるんです。その  
瞬間、私の心も癒されま  
す。抱っこを体験したサ  
ポーターは、私たちが  
子どもたちにあげるも  
のよりも、子どもたちが  
からもらえるものが通  
かに大きい」と口を揃え  
ます。それが活動を続け  
る原動力の一つかもしれ  
ません」と河本さん。

「抱っこ」を通じて、

「抱っこ」を通じて、